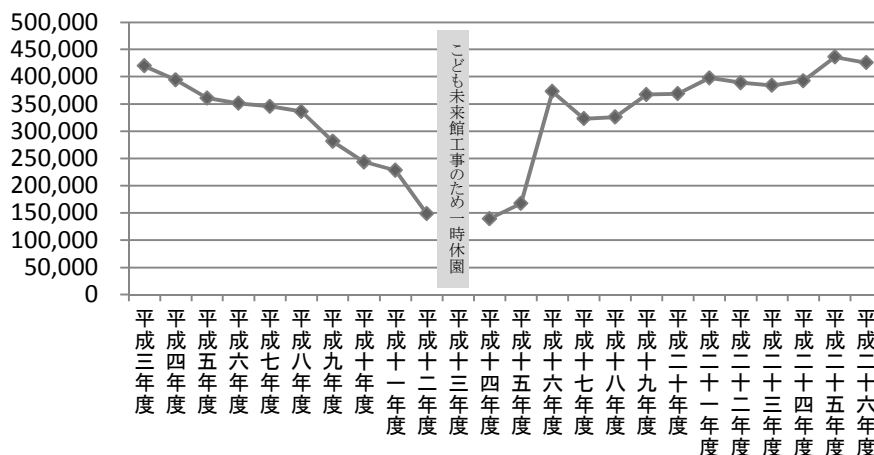


第8章 施設整備改修計画

(1) 目標入園者数の設定

将来的な入園者数の目標を設定するにあたって、開園以来の本園の入園者数の推移状況と近年の利用動向をみると、本園は、平成16年度のリニューアルオープン以降、概ね30万～45万人の間で推移している。過去5年は40万～45万人で推移している。



以上のような本園のこれまでの利用状況等をふまえ、今後再整備が進み来園者にとって魅力的な施設が順次供用された場合、入園者がどのくらい増加するかについて将来予測を行い、再整備の目標とする年間入園者数の算定を行うものとする。

なお、算定にあたっては動物園といった特殊な施設であることをふまえ、他の類似施設における人気施設整備後の入園者数の増加傾向の実績を参考に算定するものとする。

以下にその参考事例を示す。

表 他園の人気施設の導入効果

園名	所在地	導入施設名	入園者増加率 (%)	備考
天王寺動物園	大阪市	は虫類生態館 (更新)	約 10.0	H6年、ヒアリングによる
円山動物園	札幌市	チンパンジー舎	約 11.0	H12→13年、67→74万人
宮崎市フェニックス自然動物園	宮崎市	ゾウ舎	11.2	H15→16年、25.2→28.0万人
福山市立動物園	福山市	ペンギン舎	12.5	H16～17年、17.3→12.9万人

表 新規施設+展示・解説・運営の工夫で入園者数を延ばした例（旭川市旭山動物園）

年度	入園者 (万人)	入園者増加率 (%)	新規施設
平成 9 年	35	9	こども牧場、ととりの村
平成 10 年	38	9	もうじゅう館
平成 11 年	42	11	さる山
平成 12 年	54	29	ペンギン館
平成 13 年	58	7	おらんうーたん空中運動場
平成 14 年	67	16	ほっきょくぐま館
平成 15 年	82	22	あざらし館
平成 16 年	145	75	おらんうーたん館
平成 17 年	207	43	くもざる・かびばら館

これら実績からの傾向を整理すると、概ね次のようにまとめられる。

- ・ 現状の施設を更新し、魅力あるものに転換した例（天王寺動物園、円山動物園）では、約 10%程度の入園者増が見込める。
- ・ 最近の傾向として、旭山動物園の例のように新規施設の整備だけではなく、展示・解説・運営の工夫を進めることにより、施設整備で得られる 10%程度の入園者増を上回る効果が期待できる。
- ・ また、継続的に話題を提供するように施設の更新を年度ごとに進めることにより、PR 効果が生じ、経年的な入園者増につながる可能性がある。

これらの類似施設の実績の傾向より、本計画における目標とする入園者数の算定の基準となる増減率を以下のように設定する。

- ・ 新規施設による入園者数増加効果は、スター的新規導入動物がない場合でも約 10%の増加が期待できる。
- ・ 新規施設の導入効果は永続的にあるのではなく、話題性の低下等から約 3 年程度であると考えられる。

● 年間入園者数の算定基準

主要施設の整備年	10%の増加
主要施設整備後 1 年目	5%の減少
主要施設整備後 2 年目	2.5%の減少
主要施設整備後 3 年目	新規施設による増減への影響なし

また、目標入園者数として算定するにあたって、以下に示すような前提条件を設定する。

- ① 施設整備時期は、今後 10 年（H28～38 年度）の事業スケジュール(想定)に基づくものとする。
- ② 算定の起点となる年を琉球弧の修景演出工事が完了する平成 28 年度とし、その前年度にあたる平成 27 年度の入園者数は、過去 3 年の入園者数の平均値約 42 万人と想定する。

以上より、事業スケジュールに沿った増減率とその考え方を整理すると下表のようになり、結果、既存区域の再整備完了時には、概ね 80 万人、拡張区域も含めた再整備完了時には、概ね 150 万人の入園者が期待できることになる。従って、この数値を目標入園者数に設定する。

表 主な施設整備と目標入園者数の算定（他事例による予測値）

再生年度	増減率 (%)	目標入園者数	主な施設整備（オープン）※想定	
既存区域整備	H27	—	42 万人	平成 24～26 年度年間利用者数の平均値
	H28	—	42 万人	琉球弧の修景工事が一部完了
	H29	10	46 万人	琉球弧の修景工事、体験遊具、ホワイトライオン舎の整備が 10 月末に完了 ※オープン時期を考慮し、2 施設 20%分の半分
	H30	5	48 万人	※前年度のオープン効果の余波として 10%と次年度オープンにむけて工事期間中のため 5%減を考慮し 5%増
	H31	25	60 万人	ワンダーパークゾーン(無料区域) 里山の迷宮エリア(クマ舎周辺) 爬虫類の滝エリア(ワニ舎周辺) ※ワンダーパークゾーンは無料区域のため入園者として約半数を見込み想定し 5%増
	H32	20	72 万人	琉球弧エリア、ふれあい広場エリア
	H33	10	79 万人	そうぞうの池ゾーン(既存池改修等) ZOO スクールの改修 ※2 施設共、改修規模小さい、主だった動物展示を含まないことから 5%増×2 施設と設定
拡張区域整備	H34	10	87 万人	草原の動物ゾーン
	H35	20	104 万人	水辺の動物ゾーン(生命の池エリア、ゾウの舞台エリア)、 大地のパビリオン
	H36	10	114 万人	ジャングルゾーンその 1 (バードケージエリア)
	H37	10	125 万人	ジャングルゾーンその 2 (カモフラージュの森エリア)
	H38	20	150 万人	ジャングルゾーンその 3(サルの森エリア) 森のパビリオン

(2) 施設の規模及び配置計画

1) 基準日入園者数^{※11}の算定

①計量計画の考え方

施設の規模算定の前提となる計量計画は、算定方法の検討を行った上で、施設規模を割り出し、施設計画の方針を確定することを目的としている。その後、基本設計の際にその方針をもって、過大な設計とならないよう動物園の実状や過去事例等を考慮しながらそれぞれの施設規模を確定していく過程をたどるものである。

計量計画の流れとしては、先に設定した年間目標入園者数に基づく基準日入園者数の算定を行う。

既存区域整備完了時の
年間目標入園者数
80万人

拡張区域整備完了時の
年間目標入園者数
150万人

②基準日入園者数の算定方法

基準日入園者数の算定に先立ち、沖縄こどもの国の過去年間入園者数実測データから、各年度の年間入園者数の特徴を明らかにする。

過去実測データの内、近年2カ年の傾向をみると、入園者数に差はあるものの、年間入園者数推移においては同様の傾向を示しており、両者とも、土日祝祭日の中でもゴールデンウィークやイベントデーの入園者数が上位を占めており、入園者の集中する日等は同様であると考えられる。

このことから、上記実測データにおける各年度の年間入園者数推移傾向を基本パターンと捉え、将来目標入園者数（150万人）に対する基準日入園者数の算定資料として活用する。

基準日入園者数の算定にあたって、平常時に対して施設規模が過大になる事をさけるため、まず、平成25年度及び平成26年度年間入園者数データ各々での上位順入園者数の推移算出を行う。

その推移内で1日あたり入園者数が疎らに分布する上位を特異日として除いた上で、入園者数が密に分布する日の中から一番上位を基準日と設定する。

次項のグラフより、平成25年度においては上位9位まで、平成26年度においても上位9位までに疎らに分布が見られるため、25年度：10位（約17,170人）、26年度：10位（約14,360人）が基準日として考えられる。今回は、その平均値である15,765人/日 \approx 16,000人を基準日入園者数とし、施設規模の算定に用いる。なお、既存区域整備完了時の年間目標入園者数は、約80万人との予測値であることから、この時点での基準日入園者数については、同様の算定により、約8,400人となる。

■拡張区域整備完了時

年間目標入園者数150万人の場合：基準日入園者数 約16,000人

■既存区域整備完了時

年間目標入園者数80万人の場合：基準日入園者数 約8,400人

※11 基準日入園者数とは、施設整備の規模設定を行うにあたり計画の基準とする1日当たりの入園者数のこと。

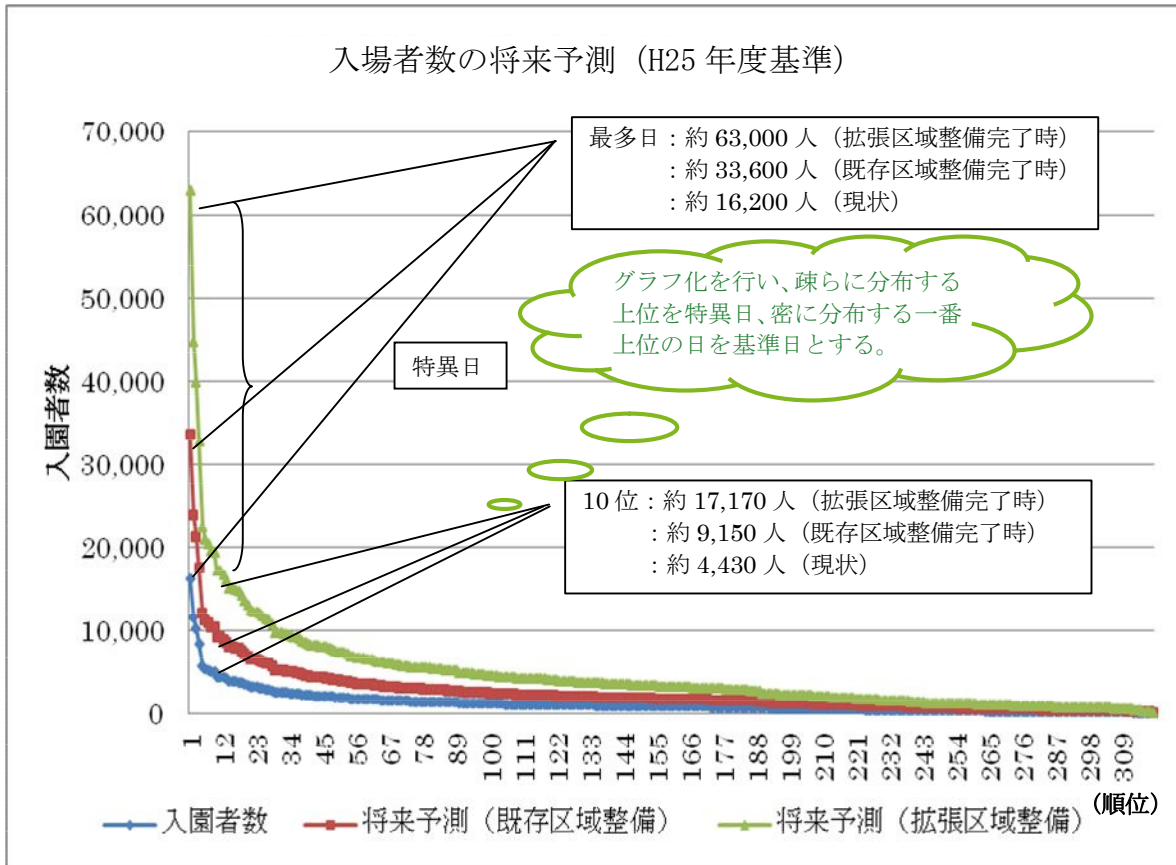


図: 平成 25 年度基準 (年間目標入園者数 150 万人) 計画入園者数

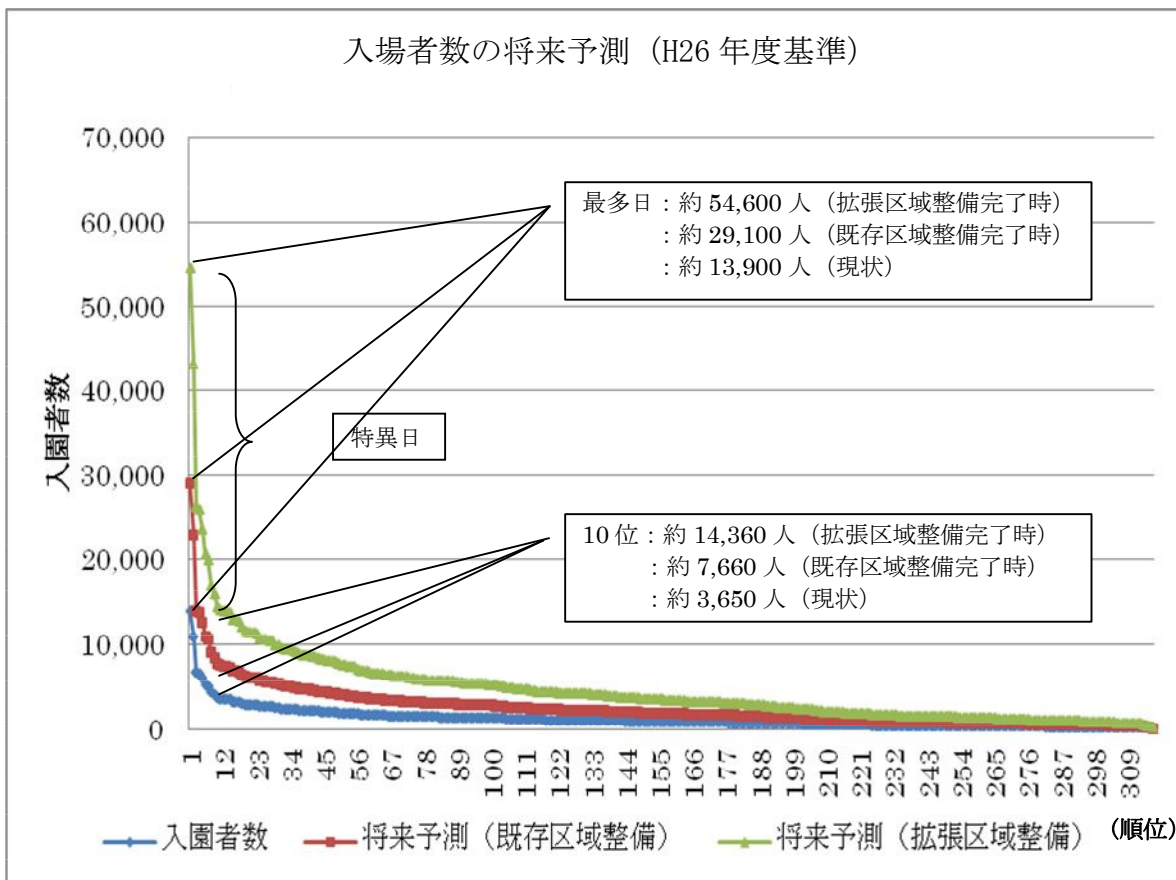


図: 平成 26 年度基準 (年間目標入園者数 150 万人) 計画入園者数

2) 駐車場

①必要台数の算出

本園において、必要な駐車場台数を以下の方法により算定する。

- 計画基準日入園者数（拡張区域整備完了時）：約 16,000 人
- 計画基準日入園者数（既存区域整備完了時）：約 8,400 人
- 現状の基準日入園者数（上位 10 位）：約 4,000 人
- 回転率：50%（1/2）…※1
- 自家用車率：90%…※2

※1：動物園利用の傾向としては、午前中に入園し昼食をとり退園するタイプと午後入園し閉園時近くに退園するタイプの大きく 2 傾向にあるため 2 回転と設定する。

※2：施設の立地環境により公共交通機関利用は、極めて低いと想定されることから、マイクロバス（定員 20 名）及び大型バス（定員 45 名）利用者を除いた入園者を自家用車利用者として設定する。平成 25、26 年度の団体バス利用者数の平均値は、年間約 37,000 人であることから、現在の年間入園者の約 10%である。従って、自家用車率は 90%と設定する。

※3：自家用の利用を 1 世帯 1 台、1 世帯当たりの人数を 3 人と想定し設定する。

■ 駐車場必要台数 = 入園者数 ÷ 回転率 × 自家用車率 ÷ 1 台当たりの乗車人数

拡張区域整備完了時の計画基準日

$$16,000 \text{ 人/日} \div 2 \times 0.9 \div 3 = \text{約 } 2,400 \text{ 台}$$

既存区域整備完了時の計画基準日

$$8,400 \text{ 人/日} \div 2 \times 0.9 \div 3 = \text{約 } 1,260 \text{ 台}$$

現状の基準日

$$4,000 \text{ 人/日} \div 2 \times 0.9 \div 3 = \text{約 } 600 \text{ 台}$$

拡張区域整備完了時の最多利用日

$$58,800 \text{ 人/日} \div 2 \times 0.9 \div 3 = 8,820 \text{ 台}$$

②既存駐車場台数及び駐車場整備の方向性

駐車場整備の方向性について、既存区域整備完了時には、既存のメイン駐車場、東駐車場、及び東第3駐車場（ダム下）の活用で必要台数 1260 台と大型バス利用をまかなう必要がある。また、拡張区域整備完了時には、南駐車場にて新規に 1140 台分の駐車場を確保する必要がある。

各駐車場の整備台数については、利用面、景観面、コスト面等により方向性を検討する。

また、先の計算によると現状においても必要 600 台に対し 560 台と不足している状況にあり、今後、沖縄こどもの国の広報活動を強化すれば、さらなる台数不足が予想されるため、駐車場を早急に整備することが求められる。

表：既存駐車場台数と整備の方向性

駐車場名		平成 25 年度	必要 台数	整備の方向性
こどもの国管理	メイン駐車場	130 台	1260 台 + 大型バス	景観面に配慮しつつ可能な限り台数確保を図る
	東駐車場	130 台		左記の必要台数からメイン駐車場で確保した台数を減じた台数を確保する
	東第2駐車場（処理場前）	200 台		拡張区域の園地整備に使用するため、駐車場利用は行わない
	東第3駐車場（ダム下）	100 台		東駐車場と合わせて、左記の必要台数からメイン駐車場で確保した台数を減じた台数を確保する。また、平日は大型バス駐車場としても活用
	南駐車場（新規）	—	1140 台	拡張区域の新規駐車場として立体駐車場を整備
祝祭日	市道こどもの国線、両側路側帯（8 時～20 時）	180 台 （概数）	6420 台	現状（180 台）を維持する
土日祝祭日 臨時	中央公園	100 台		無料区域として活用するため、駐車場利用は行わない
	沖縄市役所	300 台		現状（400 台）を維持する
	仲宗根駐車場（市役所東側）	100 台		
イベント時の 臨時駐車場	諸見小学校	250 台	現状（1500 台）を維持する	
	北中城村島袋小学校	250 台		
	沖縄市民会館	350 台		
	沖縄市中央公共駐車場	50 台		
	沖縄市運動公園	500 台		
	泡瀬漁港駐車場	100 台		
	新規	—	新規の臨時駐車場用地の確保（4340 台程度）	
合計		2640 台		8820 台

③駐車場の配置検討

基本計画において、将来的に現在のメイン駐車場、東駐車場に加え、拡張区域に南駐車場の3ヶ所と設定しており、各整備段階における必要駐車台数は、以下の通り設定している。

- ・既存区域整備完了時：1260台（メイン駐車場+東駐車場）
- ・拡張区域整備完了時：2400台（1260+1140台）

なお、園内でのストーリー展開を考慮すると、ガイダンスパビリオンを整備するメインゲートおよびナイトズー（夜間開園時）の主要入り口となる南ゲートの利用が中心となり、拡張区域完成後には、東ゲートを閉鎖することも考えられるため、可能な限りメイン駐車場において台数を確保する方向で検討を行う。

■メイン駐車場について

メイン駐車場に求められる駐車台数は、以下の通りとなる。

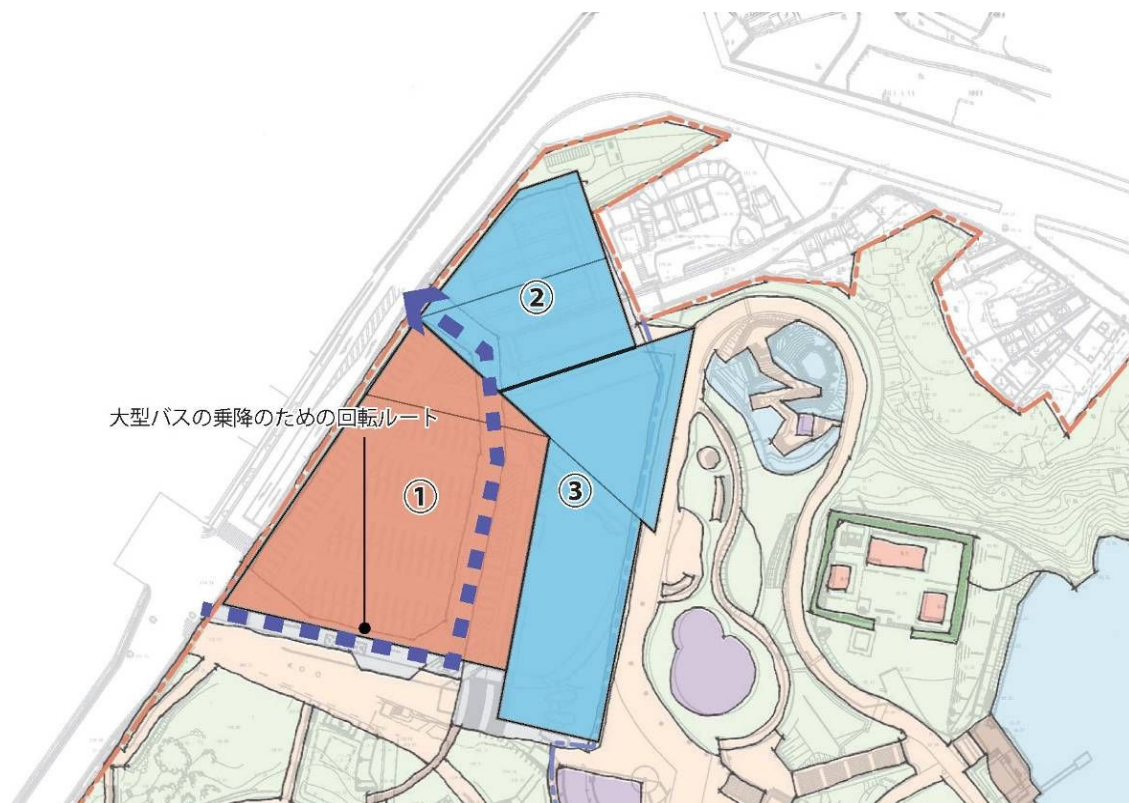
既存区域整備完了時：1260台

東駐車場での駐車可能台数(計画)：410台（東駐車場を2層に立体化した場合500台）

【駐車台数】 1260台-410台⇒850台（東駐車場を2層に立体化した場合760台）

メイン駐車場を立体化し確保可能性を検討する。なお、大型バスの転回や乗降を容易にするため、駐車場は2分割して配置することとする。

また、ガイダンスパビリオンが整備された際には、チルドレンズセンターの機能を移転するため、跡地の駐車場への転用も考慮する。ただし、チルドレンズセンターの撤去が困難な場合には、東駐車場や南駐車場(拡張区域)での補完を今後検討する。



図：メイン駐車場の台数設定根拠図

メイン駐車場を立体化については、アクセス道路からの景観性を考慮し、高さの異なる A～C 案について、比較検討を行う。

【A. 駐車場高さ 9.0m案】

■駐車場-1 (3層4段)

区域	平面面積	段数	面積	台数
1	3,475.0	4.0	13,900.0	278
2	1,612.5	4.0	6,450.0	129
台数小計				407

駐車場高さ
9.0 m
9.0 m

■駐車場-2 (5層6段)

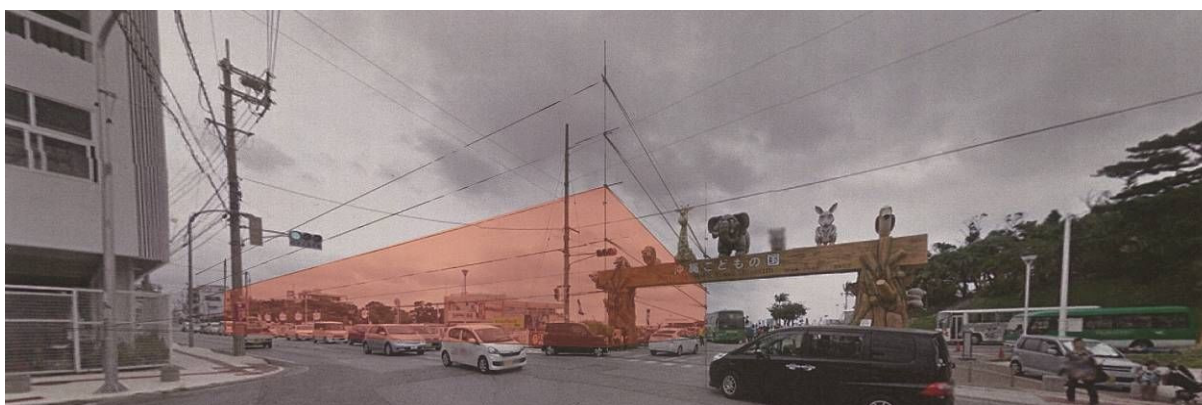
区域	平面面積	段数	面積	台数
3	2,450.0	6.0	14,700.0	294
台数小計				294

駐車場高さ
14.0 m

台数合計	701
東駐車場必要確保台数	559



図：高さ 9.0m 案の場合の景観ボリューム（正面）



図：高さ 9.0m 案の場合の景観ボリューム（斜め）

【B. 駐車場高さ 11.5m案】

■駐車場-1（4層5段）

区域	平面面積	段数	面積	台数
1	3,475.0	5.0	17,375.0	348
2	1,612.5	5.0	8,062.5	161
台数小計				509

駐車場高さ
11.5 m
11.5 m

■駐車場-2（6層7段）

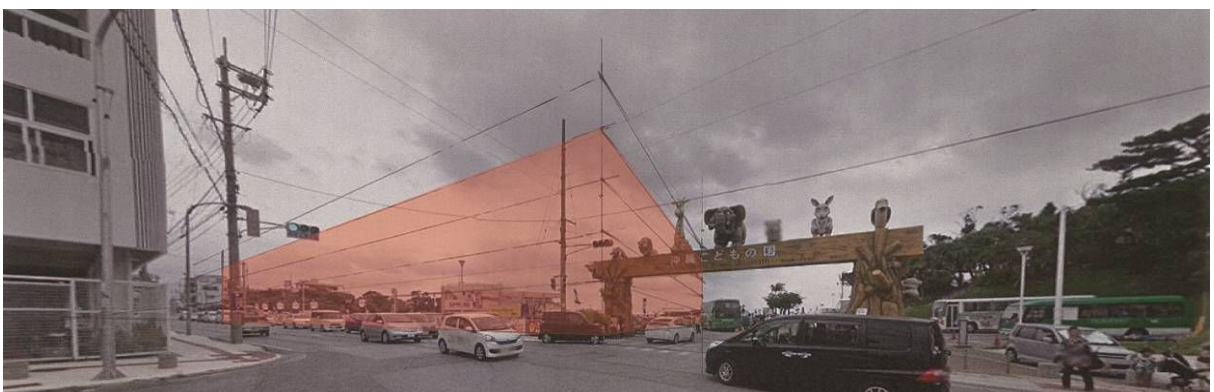
区域	平面面積	段数	面積	台数
3	2,450.0	7.0	17,150.0	343
台数小計				343

駐車場高さ
16.5 m

台数合計	852
東駐車場必要確保台数	408



図：高さ 11.5m 案の場合の景観ボリューム（正面）



図：高さ 11.5m 案の場合の景観ボリューム（斜め）

【C. 駐車場高さ 14.0m案】

■駐車場-1 (5層6段)

区域	平面面積	段数	面積	台数
1	3,475.0	6.0	20,850.0	417
2	1,612.5	6.0	9,675.0	194
台数小計				611

駐車場高さ
14.0 m
14.0 m

■駐車場-2 (7層8段)

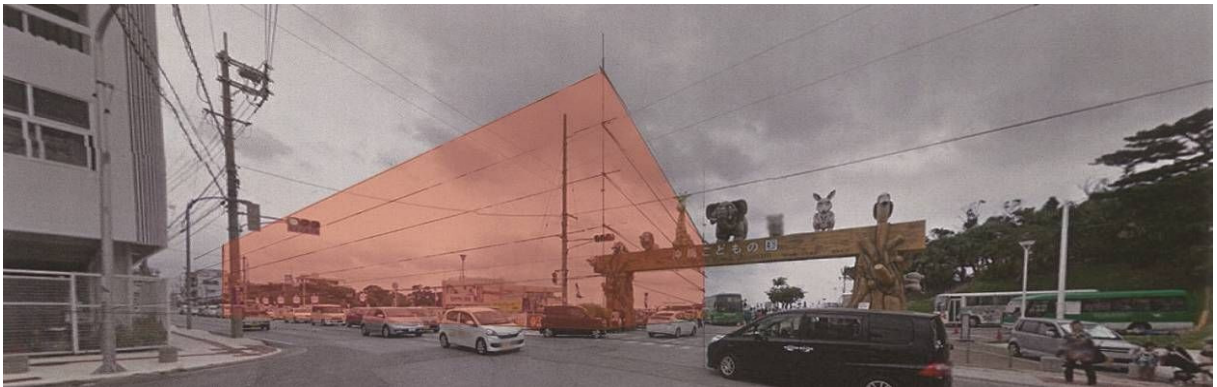
区域	平面面積	段数	面積	台数
3	2,450.0	8.0	19,600.0	392
台数小計				392

駐車場高さ
19.0 m

台数合計	1,003
東駐車場必要確保台数	258



図：高さ 14.0m 案の場合の景観ボリューム（正面）



図：高さ 14.0m 案の場合の景観ボリューム（斜め）

3案を比較した結果、台数の確保を主眼とするとC案が適しているが、5階建の中層住宅と同程度の高さとなり、景観的なインパクトが大きい。

景観面ではインパクトの少ないA案（3階建て住宅程度）が好ましいが、台数確保の面で不足が生じる（東駐車場を平面利用の場合約150台、2段にした場合60台程度不足）。

B案は、景観面でのインパクトはA案とそれほど変わらないが、台数確保の面で有利であり、東駐車場の立体化を行わずとも、台数が確保できる。ただし、現時点ではチルドレンズセンターの跡地利用が可能か不確定であり、利用できない場合、東駐車場の立体化を視野に入れる必要があるため、今後、A案B案を基に設計段階でさらに検討を進めることとする。

なお、A案B案共に、「高さ10m以上又は築造面積500平方メートル以上」に該当し、景観法上の届け出対象となる。



図：駐車場配置

④東駐車場からガイダンスパビリオンまでの移動手段の検討

東駐車場からガイダンスパビリオンまでの移動手段について、以下に検討する。

■空中ライドの検討

空中ライドは、こどもの国のユニークな展示の一つである”俯瞰展示”を具現化するものであるが、アトラクションとしてのみならず、手軽な園内移動施設としても活用する。

現時点における空中ライドの設定諸元は以下の想定としている。

【軌道延長】	約 2100m/周 (2.1km/周)
【乗車人数】	4人/台
【移動速度】	3km/h
【籠体間隔】	@30m/台
【UD対応】	基本OK ※ただし、駅舎にユニバーサルデザイン対応施設が必要

以下に空中ライドの輸送能力の検証を行う。

【運行台数】	約 2100m/周 ÷ @30m/台 = 70 台
【周回時間】	2.1km/周 ÷ 3.0km/h = 0.7h/周
【周回数】	回転率 1 回分の約 4 時間における周回数は、4h ÷ 0.7h/周 ≒ 5.7 周
【輸送人数】	5.7 周 × 70 台 × 4 人/台 ≒ 1600 人

上記の通り、半日で約 1600 人の輸送が可能である。



図：空中ライドの標準ルート

■地上ライドの検討

園外での運用も可能な地上ライドとしては、シャトルバス（以下、SB）型とロードトレイン（以下、RT）型が主な方式であり、概ね以下のような諸元で整理される。



写真：SB型

写真：RT型

【燃料方式】 電気（以下、EV）方式／天然ガス（以下、LPG）方式

※環境教育施設としてガソリン方式の検討は行わない

【登坂能力】 EV：5～10％／LPG：15～20％

【輸送能力】 SB型（小型）：10人程度／RT型：40人程度（3両連結時）

【移動速度】 共に6～7km/h

※事例より

【UD対応】 共に基本OK

【標準価格】 SB型：500万円程度／RT型：2000万円

ピーク日における東駐車場からの許容輸送能力を算定する。

【駐車台数】 約500台

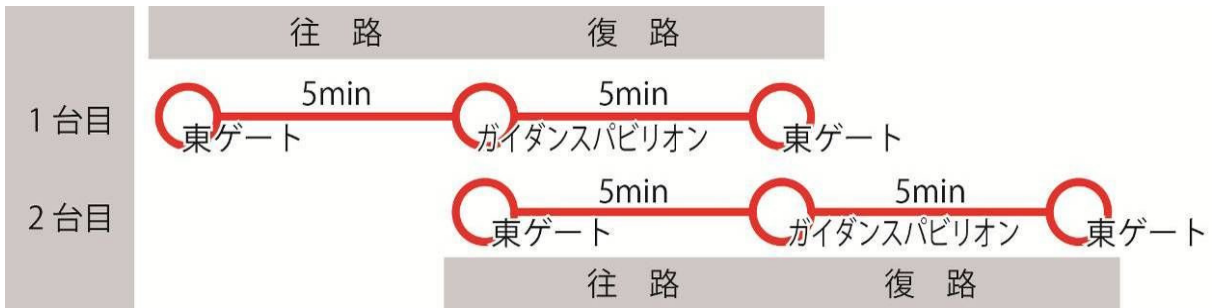
【来園者数】 約500台×3人/台（乗車率）＝1500人

【輸送能力】 基本計画において1日当たりの回転率を2回と設定しているため、概ね4時間で来園者の全数が入替わる

5分間隔で運行すれば、4時間以内にSB型の場合「480人」、RT型の場合「1920人」の輸送が可能である。

故に、RT型を採用し5分間隔で運行し、最低2台での運用を想定する。

運行範囲については、拡張区域は既存樹木の保全を図ることやトロッキ型ライドが導入されていることから、地上ライドの導入は行わず、既存区域内の運行とする。



図：運行間隔イメージ

【輸送人数】 1920人 > 1500人

OK



図：地上ライドの標準ルート

3) 便所

本園において、必要な便所の穴数を以下の方法により算定する。

- 計画基準日入園者数（拡張区域整備完了時）：約 16,000 人
- 計画基準日入園者数（既存区域整備完了時）：約 8,400 人
- 現状の基準日入園者数（上位 10 位）：約 4,000 人
- 回転率：50%（1/2）…※1
- 同時使用率：1/30…※2
- 適正器具数：男大：男小：女大=4：5：7…※3

※1：動物園利用の傾向としては、午前中に入園し昼食をとり退園するタイプと午後入園し閉園時近くに退園するタイプの大きく 2 傾向にあることから、施設回転数を 2 回転と設定する。

※2：文献による同時使用率の例は下表のとおりであり、文献上の最高水準は 1/30 である。便所に対するサービスマン水準は、利用者の満足度に大きく作用すること、子供を対象とした施設であり待ち時間が長くないような配慮が求められることから、1/30 と設定する。

表：同時使用率の例（参考）

根拠	同時使用率
阪神大震災における避難所ヒアリング(日本トイレ協会)	1/60～1/100
自然公園の計量計画	1/80
都市公園実測値例	1/73
防災公園等の計画・設計例	<u>1/30</u> ～1/100
神戸市地域防災計画（地震対策編）	1/100

出典：「防災公園計画・設計ガイドライン」（財）都市緑化技術開発機構

※3：空気調和・衛生工学会「衛星器具の適正個数算定法（1）～（8）」の抜粋を基にした、任意利用型（百貨店・公園・遊園地等）の適正器具数比率、男子（小）5：男子（大）4：女子7を参考。

■ 便所必要穴数 = 入園者数 ÷ 回転率 × 同時使用率

拡張区域整備完了時の計画基準日

$$16,000 \text{ 人/日} \div 2 \times 1/30 = 267 \text{ 穴}$$

男大：男小：女大 = 4：5：7 ⇒ 67 穴：83 穴：117 穴 以上確保する

既存区域整備完了時の計画基準日

$$8,400 \text{ 人/日} \div 2 \times 1/30 = 140 \text{ 穴}$$

男大：男小：女大 = 4：5：7 ⇒ 35 穴：44 穴：61 穴 以上確保する

現状の基準日

$$4,000 \text{ 人/日} \div 2 \times 1/30 = 67 \text{ 穴}$$

男大：男小：女大 = 4：5：7 ⇒ 17 穴：21 穴：29 穴

次表より既存の便所穴数については、計量計画上満たしているものと考えられるが、実際には老朽化が進みほとんど利用されていない便所が見受けられる等、穴数と利用の実態が伴っていない。便所は、利用者の満足度にも大きく影響する施設であり、老朽化が見られるものについては、改善を図る必要がある。

■ 既存便所穴数及び便所整備の方向性

便所整備の方向性については、先の計算式により求めた必要穴数以上を確保するものとし、参考器具比を目安として整備数を設定する。

基本的に、老朽化が激しい既存便所や再整備において土地の有効活用の面から配置上問題のある既存便所は、撤去する。

また、便所の穴数配分の基本的な考え方として、飲食施設やパビリオン等人の滞留の多い施設は、配分を多めに設定し、次いでゾウの舞台等一時的に多くの利用者が見込まれる場所について配分を多めに設定する。なお、多目的便所は、便所1箇所につき最低一つ設けることとし、複層階の建物には、1層ごとに確保する。

以下に、便所の配分を整理する。下表の数値は目安であり、今後の具体的な詳細設計で調整を図ることとする。

表：既存便所穴数と整備の方向性（ ）内は、再整備後廃止・撤去するもの、赤字は新規整備

		男大	男小	女	多目的大	多目的幼児用大	多目的幼児用小	授乳室	整備の方向性
既設	便所-1 (シカ舎横)	(2)	(3)	(2)					再整備により撤去
	便所-2 (滝造形横)	(2)	(2)	(3)	(1)				再整備により撤去
	便所-3 (ふれあい広場)	1	1	2	1	1	2	1	現状維持
	便所-4 (メリーゴーランド横)	(2)	(4)	(5)	(1)	(1)			再整備により撤去
	便所-5 (中央公園)	(2)	(3)	(3)	(1)	(1)			再整備により撤去
	便所-6 (越冬舎横)	(2)	(2)	(3)	(1)				再整備により撤去
	チルドレンズセンター	(4)	(6)	(6)	(5)	(5)			再整備により撤去
	ワンダーミュージアム	7	8	11	5	4	4	1	授乳室追加
	ブースクール (動物センター)	3	4	3	2	1	1	1	授乳室追加
	ウェルカムテント	2	3	3	1	1			現状維持
合計 (現状)		27	36	41	18	14	7	0	
新設 (既存区域)	ガイダンスパビリオン	10	14	15	8	8	3	2	チルドレンズセンター及び便所-5の代替整備
	琉球弧	4	5	5	1	1	1		便所-3の代替整備
	里山の迷宮	3	4	5	1	1	1		
	ゾウの舞台周辺	5	8	10	2	2	2	1	
新設 (拡張区域)	森のパビリオン	10	13	17	3	3	3	1	
	草原のパビリオン	10	13	17	3	3	3	1	
	南ゲート	4	5	6	1	1	1		
	バードケージ周辺	3	4	6	1	1	1		
	草原の群れエリア-3 周辺	3	4	5	1	1	1		
合計 (既存区域整備完了時)		35	47	54	21	19	14	6	
合計 (拡張区域整備完了時)		65	86	105	29	27	22	8	

4) 休憩施設

休憩所については、夏の強い日差しや突然の降雨、団体収容にも対応できるものとして、パピリオン等の建物内に休憩場所を確保する。また、各エリアに1カ所は屋根付きの休憩施設を配置し、エリア間をつなぐ園路は、緑陰等により快適な空間を提供する。

また、子供の見守りスペースや動物をゆっくり観覧できるようなベンチ等の休憩施設も適宜配置する。



図：便所・屋根付き休憩所配置